

家庭科の授業で手話学習

「共に生き、共に支える」

12月3日から6日に、昨年度に引き続き1年生を対象とした家庭科の授業「共に生き、共に支える」の中で、手話の基礎学習が行われました。本年度、一年生は人権教育LHRで「聴覚障がい」の学習をしました。それを踏まえて、手話普及支援員の新井素子さんの講話を聞いた後、挨拶や級友の名前を手話で表現する活動に挑戦しました。また、「手話言語条例に込められた思い」についても学習しました。共生社会を目指し、今、自分に何ができるか。これから何に挑戦していきたいかを考える時間となりました。



▲何という名前の手話でしょう？

生徒感想

「早速家族に教えたい・表情の大切さも学んだ・笑顔で挨拶をしたい・手話を学ぶ人が増えれば暮らしやすい社会になる・簡単な日常会話が手話で伝えられるようになりたい・手話言語条例ができたのはすごいことだと知った・災害時も助け合える環境にしていきたい」



△上の正解は、田中でした